

平成30年度 第4回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：グローバルに活躍できる人材の育成に向けて
- 2 日時：平成30年12月25日（火）
- 3 場所：岡山国際交流センター
- 4 参加者：留学経験のある学生や社会人、人材育成に携わる教育関係者：8名
- 5 知事挨拶

- ・留学経験から得たものや、今後どのように留学経験を生かしていきたいか、また、さらに留学を促進するために県ができることなどについて、ざっくばらんに意見をいただき、県政を進める上での参考にしたいと考えている。

6 発言内容など

【留学で苦労した話や役に立った話】

- ・アメリカの大学に留学をしたが、試験が厳しく、授業についていくのがやっとの状態だった。
- ・寮が一緒であったアメリカ人は、勉強と遊びの切り替えがしっかりしており、勉強になった。
- ・中国の大学に留学し、寮で生活したが、中国語が全くできない状態だったので苦労したが、さまざまな国の友人ができた。
- ・アメリカの大学への留学により、親元を離れて生活したことで、どこでも生きていけるという自信が付いた。
- ・英語を早い時期から学ぶことができた。
- ・アメリカの大学に留学したことにより、英語力が身に付き、就職にも役立った。
- ・日本人がいない学校で、ありのままの現地の学校生活を体験することができた。
- ・オーストラリアに留学し、小学校における日本語教師のアシスタントをしていた。相手が小学生で、日本語も英語も伝わりにくかったため、言語以外の手段で相手に伝える力が身に付いた。
- ・アメリカの大学に留学したが、日本とは比べ物にならない多様性があり、みんなが違いを受け入れていることを感じた。

【留学をしたきっかけについて】

- ・中学生の頃からアメリカの文化、特にジャズやカントリーミュージックが好きだったため、本場でジャズなどが聞きたいという気持ちで留学した。
- ・大学時代の短期研修で訪れ、さまざまなカルチャーショックを受けたが、そ

れをおもしろいと感じたため。

- ・親戚にバックパッカーがいて、影響を受けたため。
- ・幼少期をブラジルで過ごし、良い思い出ばかりだったため、海外に対して良いイメージを持っていたが、そのイメージを確認するために留学した。
- ・交換留学制度があり、英語を専攻していたことから、受験した。
- ・制度があり、誰かが背中を押してくれることも重要だと思う。
- ・高校生で長期間留学することには、学校や家族からも反対の声があったが、幼い頃から英語や文化を学びたいという気持ちがあったため。
- ・幼い頃は外国人に対する恐怖心があったが、両親が人を見た目で判断する人間になってほしくないとの思いから、外国人が教師をしている英会話教室に通うようになり、興味が湧いた。
- ・高校生のときに留学をした際のホストファミリーがとてもいい人だった。
- ・留学については、親からの勧めもあった。
- ・中学生の頃からアメリカの文化やドラマが好きだった。
- ・高校や大学の友人に帰国子女や留学生が多かった。
- ・学びたい分野が日本には無く、アメリカにはあった。
- ・小学生の頃から青年海外協力隊に興味があった。
- ・社会人になってからは、日本人は英語ができないことを理由に、かなり損をしていると感じた。

【留学の妨げになっていることは】

- ・社会人になってから、英語を使う場が少ない。
- ・英語が何の役に立つのかをはっきりさせないと保護者の理解が得られない。
- ・日本人は保守的などころがあり、海外に行くことに慎重。
- ・そもそも日本での生活に満足しており、海外に目が向かない
- ・県内企業にも海外に進出したり、ターゲットにしたりしている企業が多くあるので、英語を使い活躍できる企業は多いことを知ってほしい。
- ・留学経験を評価する仕組みが必要だと思う。
- ・帰国後に幅広い進路があることを提示できるとよい。
- ・AIが進化し、英語は誰でもできるという時代がくるかもしれないが、留学で身に付けた語学以外の力を評価する必要があると思う。
- ・高校生で留学となると、周りからは大学受験への影響を心配された。
- ・大学のカリキュラム上、専門科目が多いため、留学をする期間を確保することが難しい。
- ・大学での単位取得や試験のことを心配された。
- ・留学についてのメリットをはっきりさせ、保護者を説得する必要がある。

【留学生が周りに影響を与えた例はあるか】

- ・高校に海外からの留学生を受け入れたが、周りの学生にも良い影響を与え、学年全体が盛り上がった。
- ・交換留学は受入側にも派遣側にもメリットがある。
- ・先進国から来た留学生には憧れを、途上国から来た留学生からは向上心を感じることができる。

【県や社会が留学促進に向けて取り組むべきこと】

- ・就職後、海外での実地体験ができると社会での活躍につながる。
- ・スポーツやボランティアなど、さまざまな分野で留学できるとよいと思う。
- ・海外に触れるきっかけを増やすことが重要だと思う。
- ・企業による奨学金制度がもっとあってよいと思う。
- ・企業には広告費という意味合いで出してもらい、企業は自社の取り組みを宣伝できるし、学生は留学ができるといった、ウィンウィンの関係になれば良い。
- ・留学ができるということを学校の特色としたり、そういった制度や補助金があると良い。
- ・留学だけでなく、学校の中に国際交流プログラムを組み込むこともよいと思う。
- ・子どもの国際交流の場を増やすべきだと思う。
- ・日本の社会では、次世代を育成するという意識が薄いと思う。
- ・「今は昔に比べ恵まれているのだから」という意識が障壁となっている、若い世代の人達はそれを言われると何もできない。
- ・留学や異文化交流が楽しいというだけでなく、就職につながるなどのメリットがないといけない。
- ・留学をすることで得るチャンスや、地域経済も海外を意識しているということをフェアなどでアピールすべきである。
- ・アジアには英語が普及しており、かつ費用を抑えることができる地域もあるため、アジアとの交流も促進すべきだと思う。

7 知事のまとめ

- ・個人のためにも社会全体のためにも留学を促進していきたいと考えている。
- ・さまざまな障害があるが、少しずつ留学に対するハードルを下げたり、背中を押してあげられたりするようにしたい。
- ・留学した人が活躍して、留学して良かったと思える社会にすることが、日本全体にとって適応力のある未来につながっていくと思う。